W校中高等部だより
球技大会特集

令和四年(二〇二二)五月二十一日
ニューヨーク補習授業校W校



W校中高等部の球技大会が五月二十一日に盛大に行われました。各種球技に参加した中高等部の生徒たちは、暑すぎるほどの好天下、さわやかな汗を流し、楽しく親睦と交流を深めたようでした。

生徒たちは、クラスごとに色を決めたTシャツに、各クラスで考えた独特のデコレーションを施し、大会気分を盛り上げていました。

球技大会は、中等部二年の新場悠正君、五上菜穂さん、松澤明慧君の元気の良い選手宣誓を合図に、男女混合縦割り八チームに別れ、バスケットボール・バレーボール・ドッジボール・サッカーの四競技を行いました。また、最後には紅白に分かれての全員参加の大ドッジボール大会も行い、生徒たちは、自分の得意な種目だけでなく、みんなで一つになって、活動を楽しんでいる姿が印象的でした。

二週間前からチームごとに昼食をとったり、チームワークを高める活動(チーム名確認ゲーム、名前覚えゲーム、チーム練習など)をしたりしてきたことで、グループ同士の顔や名前を覚え、高等部のリーダーを中心にまとまったチームができました。生徒たちが汗をかきながら得たものは、学年やクラスを超えた団結・協力・相互理解、そして、諦めない心。生徒たちにとって、この球技大会は補習校ならではの思い出作りの場となりました。

競技に参加した生徒一人ひとりの活躍する姿、下級生を思いやり、チームを上手く牽引する高等部のリーダーの頼もしい姿、そして何より、全員の輝く笑顔、普段の授業日には見られない新しい姿をたくさん見ることができました。

試合後には、保護者会からの冷たい差し入れに、ボランティアの方々含め、参加者全員が笑顔で感想を語り合い、無事終了しました。

総合成績

一位：Hチーム

二位：Aチーム

三位：Cチーム

競技ボランティアの皆さん

卒業生　井澤さん、コウエンさん、柴田さん、静さん、宮﨑さん、森藤さん



競技ボランティアを卒業生にお願いしました。卒業生たちは、この球技大会の準備のために来校し、ジムのバレーコート、バスケットコート、ドッジボールコートのラインテープ貼り、ネット設営などの準備に献身的に取り組みました。また、大会運営のため、準備から進行、後片付けまで、この大会を支えていただいた保護者会ボランティアの皆様にも感謝申し上げます。

球技大会の感想

中等部一年一組　佐久間　彩華

五月二十一日に私は今年初めて球技大会に参加しました。その二週間前にはTシャツのデザインを描き、チームが決まりました。

当日は初めて高学年の人達と活動したので緊張していましたが、天気が良かったのでやる気が出てワクワクしていました。

一番最初の競技はドッジボールでした。練習が少なかったので高学年の人が投げる球の強さやスピードが怖かったです。

その次の競技はバレーボールでした。私はバレーボールが好きなので、一番面白い競技でした。ちょうど現地校でもバレーボールの練習をしていたのでサーブやパスがちゃんと出来て嬉しかったです。

その後には外に出て、サッカーをして遊びました。外はとても暑かったのでディフェンスをしながら休みました。

四番目の競技はバスケットボールでした。私はバスケットのボールが頭に当たった事が数回あるので、バスケは苦手です。試合では私にボールが三回パスされましたが、すぐに他の人にパスをして上手くいったと思いました。

最後には中高等部全員でドッジボールをして遊びました。私は兄と同じ赤チームでしたので、一緒に遊べて楽しかったです。しかし、ボールが二つになってからは怖くてすぐにアウトになってしまいました。

球技大会の後には、順位の発表がされ、私のチームは三位だと言われました。球技大会の最後には雪のような真っ白なレモン味のアイスが配られ、クラスの皆と一緒に食べました。冷たくてとてもさわやかで美味しかったです。

中高等部の球技大会は運動会の代わりのイベントです。

今回は高学年の人達と一緒に活動できたので、中高等部の仲間入りが出来た気がしてとても嬉しかったです。今年の夏祭りや蚤の市の活動も今から楽しみにしています。



中等部一年一組

五月二十一日、補習校中高等部で初めての球技大会がありました。初等部の運動会とはまったくちがいました。初等部では、小さな子供向けの競技しかなく、僕にはもの足りませんでした。しかし、球技大会ではバレーボール、バスケットボール、サッカー、ドッジボールというような本当のスポーツを楽しむことができました。

僕が好きだったのは、まず、みんなでおそろいのTシャツにメッセージを書いて着たことです。気持ちが盛り上がりました。それから補習校に入って初めて、他の学年と同じチームで一緒に競技に参加したのがとても良い経験になりました。他の学年に友達もできました。

四つの競技の中で一番楽しかったのは、やはりバレーボールです。バレーはサッカーとちがい点数がどんどんとれるので、面白くてたいくつしませんでした。あっという間に競技時間が終わり、もう少し続けたかったです。

また来年も必ず参加したいです。九十度を超えるとても暑い日だったので、最後にみんなで食べたアイスクリームがとてもおいしく、忘れられない補習校の思い出の一日となりました。



球技大会

中等部二年一組　冨岡　せりな

先週、私が中等部に入ってはじめての球技大会がありました。夏みたいな暑い日にサッカーやバスケットボールをするのは大変でしたが、去年はパンデミックで開催できなかったことを考えると良かったと思います。実際に経験してみると、想像していたよりも楽しかったです。

私は、中等部の時、球技大会は小学校の運動会みたいには盛り上がらないだろうと思っていました。中等中学生はチームで競い合うことに夢中にならないだろうと思っていたのです。つまらないかもしれないけど授業を受けるよりは楽しいだろう、と言う程度にしか考えていませんでした。しかし実際にチームを組んで大会に挑んでみると上の学年の人たちもみんな本生で競い合おうと思っていることに気づきました。それに加えて、普段は話さない人たちと一緒にチームになり、協力したのも良い経験になりました。

私は、バスケットボールは得意ではないけれど、この日一番楽しかったのはバスケットボールの試合でした。上手ではない私が、チームのために活躍することができて嬉しかったのです。試合の間、冗談であいつのチームの友達から

「何も活躍してない子じゃん」

と言われました。そう言われた一分後に得点を入れることができて、友達はびっくりして口を空けていました。自分でも少し驚いて、面白かったです。

サッカーでも、良い試合ができました。サッカーは、私の一番苦手なスポーツです。だからディフェンスでゴールのところを守る役目だけをしました。フィールドが小さかったのでみんなボールの近くにいて、そんなに走らなくて済みました。

とても暑かったので、球技大会の後に食べたアイスが美味しく感じました。また次の球技大会を楽しみにしています。



初めての球技大会

中等部二年一組　五上　菜穂

今年始めての補習校のイベントは球技大会でした。クラスで作ったTシャツを着て八チームに分かれて行い、私はDチームでした。競技はバレーボール・ドッジボール・バスケットボール・そしてサッカーの四競技がありました。

開会式で私は選手宣誓をしました。始まる前はとても緊張していましたが、それが終わるとクラスメイトや先生が褒めてくれて嬉しかったです。私のチームの初めの競技はバレーボールでした。私が初めのサーブを打ったのですが、しっかりとコートに入り得点できて良かったです。前半と後半のどちらも勝てました。二種目目はドッジボールで相手には強そうな男の子たちがいたので心配でしたが、なんとか粘って勝てました。三種目目はバスケットボールでした。この競技から私たちのチームワークが強くなったので、全員にボールが回って得点が取れました。前半は負けましたが、後半に追い上げて勝つことができました。最後の競技はサッカーです。ここまで三勝していたのでサッカーでも勝ちたかったですが二対一で負けてしまいました。悔しかったですが、チームで協力して体を動かせてとても楽しかったです。大ドッジボールで私は一番最初に当てられてしまい、見ていただけでしたがそれでも楽しめたドッジボールでした。チームメイトとも仲良くなり、ハイタッチをしたのも全て楽しかったです。

そして閉会式、残念ながらトップスリーには入れませんでしたが私はそれよりも楽しい思い出は増えたことが嬉しかったです。教頭先生のお話で「補習校は立派な学校です。」と仰っていましたが、私もそのとおりだと思います。最後にもらったレモンシャーベットも美味しかったです。次の補習校のイベントが待ち遠しいです。



一時間だけの球技大会

中等部三年一組　マーティン　美桜子



「どうしよう・・・」

本当はフル参加できるはずの球技大会でしたが、数週間前に大雨で中止になったサッカーの試合が球技大会と同じ日の午後に延期になり、私はどちらに出るか選ばなければいけないことになりました。三年前の私なら、迷いもせずサッカーを選ぶでしょう。しかし、コロナのせいで、去年はできなかったし、今年は私の初めての球技大会だったので、サッカーの試合には出たいけど球技大会にも同じぐらい出たい私がいました。

私は何日もの間、悩み、友達に相談したり、家族と話し合ったりしました。最終的には私はどちらかを選ぶことはできず、両方に参加することを決めました。球技大会は最初の一時間だけ参加することになり、私はその時間を十分に楽しもうと決意しました。

いよいよ待ちに待った球技大会が始まりました。最初の種目はバレーボールでした。

「絶対勝つぞ！」

と、チームメイトと息込みました。最初のセットは十七対十四で勝ちました。第二のセットは一点差で負けましたが、最後にチームの点数の合計を計算して私たちは二点差で勝ちました。

次はドッジボール。私はドッジボールが苦手なのであまりチームに貢献できませんでした。最後、サッカーができずに時間になり、早退しなければいけなかったことが残念でなりません。

初めての球技大会は少しだけの参加だったけれど、やっぱり私は出てよかったと思います。みんなで力を合わせて競技をすることは久しぶりでとても楽しかったです。来年はぜひ最初から最後まで参加できたらいいと思います。

楽しかった球技大会

中等部三年一組　長谷　杏吏

「ピーッ。はい、始め！」。

これを聞き、僕の中等部初の球技大会が始まりました。残念ながら、僕は、小六の卒業式は、コロナでなしになり、中一と中二の半分は、オンラインでイベントがほとんどありませんでした。でも中等部に入って一番楽しい球技大会にやっと参加できることを聞いて、すごく嬉しかったです。クラスのみんなで面白いクラスTシャツを作って、当日の縦割りのチームに分かれました。チームのみんなの事は知っていましたが、中一の生徒が一人足りなく、クラスの友達のお姉さんが高等部からチームに入ることになりました。

まもなく大会が始まりましたが、バレーボールが最初だったのでチーム全員が落ち込みました。僕たちは高一以外背がみんな低かったのです。

「これはやばいなぁ」。

と僕は心の中で思いました。相手は背の高い人がばかりです。最初のほうは、負けていましたが、途中から勝ち始めました。その理由はチームの皆が協力し頑張れるような気分にしたからです。

僕は、その時、担任の先生の言葉と自分の大会の目標を思い出しました。

「中三は、高等生を手伝って、中一・二を引っ張っていく役目がある」のです。

そして僕の目標は、

「みんなが楽しめるように努力すること」でした。

なので、みんながやる気になるために、「ナイストライ」「ナイス！」と言う掛け声をチームメイトに送って、頑張れるように元気づけました。

僕たちは、バレーボール、ドッジボール、バスケットボールと勝ち進みましたが、最後のサッカーで負けてしまいました。でも、負けてしまったことよりもチームみんなで三回勝ったことがすごく楽しかったと思います。

自分の目標を達成し、先生の言うことも守ることができ、すごく良い大会になりました。またぜひこれだけの楽しい大会を来年もしたいと思います。



人生の第一章で一緒に作った一勝という一生の思い出

高等部一年一組　入江　天悠



五月二十一日W校補習校で熱き戦いが行われていた。僕はチームの顔合わせに参加できないまま球技大会当日を迎えた。僕の名前を知らないはずなのに、いきなり「入江」と呼ばれて、後輩くんに話しかけられた。お互いに初めて話すのにとても話しやすく、球技大会が始まる前には、話すことができていて、勝てると予感がしていた。

最初のスポーツはドッジボールだった。結果は前半後半ともに負けてしまった。それも完敗だった。一人一人が自分のことだけを考えていて、試合中に会話もほとんどなく相手のチームに勝てるはずもなく負けた。その次のバスケでも同じことが起こってしまった。一部の人だけがボールを持ち、チームと言うよりかは一種の個人競技とも思うくらいになっていた。また、時折チーム内でボールを取り合うことさえあった。自分はというと、ほとんどパス係だった。高一なのにシュートを一本も打たなかったのは聞こえが悪いが、自分の気持ちの中では球技大会の雰囲気を楽しんでいた。

三つ目のサッカーで、少し声を出すようにしたら、周りの人も「ナイス」、「惜しい」など少しずつ声を出していた。それでも、結果は負けだった。しかし前の「負け」とは全然違う「負け」だった。なぜなら、前までは少しもチームワークがなかったが、サッカーでの負けはチームワークがあり、負けたことが少し惜しかった。

いよいよラストになっていた。でも、前までとは違い、明るく楽しい雰囲気になっていて、その結果僕のチームは勝利を手にした。

この球技大会では、チームワークがとても大事だと再度確信した。そう、勝利の方程式と言われるものがあるが、その×はチームワークなのだと思う。そして、何といっても、「勝利」が一番嬉しかった。これからは上級生として下級生をサポートしていき、高二の先輩たちもサポートできたらよいと思った。そして、最後に来年は絶対に勝つ！

緊張の球技大会

高等部一年一組　岩﨑　莉奈

「球技大会、無事に終われるかな。」

球技大会の前日、私はそのような不安な気持ちでいっぱいでした。補習校の球技大会は初めてでしたし、運動が苦手なので、周りの人やチームに迷惑をかけてしまうのではないかと感じていました。しかも天気予報によると、当日の予想最高気温は三十二度と、今年になってから一番の暑さ。昨年のスポーツ大会で体調を崩したこともあり、熱中症への心配もあったのです。

当日、朝起きて窓を開けると、天気予報通り、今年初めての暑さを感じました。いつもは外れる事の多い天気予報ですが、このような時だけ、なぜか当たってしまします。あまりの暑さに一瞬憂鬱な気分になりましたが、パジャマからクラスTシャツに着替えると、不思議と前向きな気持ちになり、頑張ろうと思えました。Tシャツ一枚で変わるのかと、自分でも驚きました。やはり皆でおそろいデザインで作った、思い入れのあるTシャツだからかな、と思いました。

午後、ついに球技大会が始まりました。私は、運動が苦手なため、案の定、作文に書く事が一つもないぐらい、何も活躍できませんでした。しかも、心配していた暑さでしんどくなり、四種目のサッカーは参加できませんでした。ですが、ボランティアの保護者の方が氷や冷えた水を持ってきてくださったりして、私は体調を回復できました。その時私は、今回の球技大会は、たくさんのボランティアの方に支えられて開催することができていることを改めて実感しました。ボランティアの方のお陰で、最終種目である大ドッチボールには参加することができました。大ドッチボールは、私の中で一番印象に残っている種目です。両チームとも、大人数であるのにも関わらず、協力して、より多くの人数がコートに残れるように頑張ろうと努力している姿を見て私は、学年やクラス関係なく、みんなで一丸となって団結することができる、補習校の中高等部を誇りに思うことができました。

チームの結果としては上位には入れませんでしたが、最後は無事に笑顔で終われたので良かったですし、中高等部の繋がりをより強めることができた、貴重な経験でした。最後に、クラスメイトと一緒に食べたアイスは、格別においしかったです。



最後の球技大会

高等部二年一組　シュワルツ　吾知

「今日は、補習校最後の球技大会だ。みんなで作ったおそろいのTシャツを着て、楽しく最後の球技大会に参加するぞ！」

なんて特別な思いにふける余裕が、私にはなかった。昨日までの涼しさとうってかわって、突然蒸し暑くなったこの日、私は現地校の陸上競技大会に朝から参加していた。慣れない暑さのせいで、競技を終えて補習校に向かう頃には軽い熱中症のような感じになっていた。とにかく競技場から補習校に移動して、そこにいるだけで上出来だと自分に言い聞かせていた。それくらい頭が痛くて仕方がなかった。

だから体育館に入って、みんながプレーをしている様子を見た時は、すでに今日の目的を果たせたような気がした。とにかく球技大会に顔を出す。それで自分の気持にも、行動にも満点をあげられる。最後だからとか何とか言った特別な思いはもうどこかに消えていたのだ。

競技に参加し始めても、やっぱり頭が痛い。プレーを楽しむこともできないし、友達の様子を見て、笑ったり、いつものように野次を飛ばしたりする余裕もない。むしろ、トイレに行って頭から冷たい水をかぶりたいくらいだった。それでも私は、なかなかボールが回ってこない下級生にボールをパスしたり、話したことのない下級生に話しかけたりしていた。けれど、これは意識してやっていたわけではなかった。頭が痛いのだから、意識してするような余裕はもちろんなかったのだ。



ふり返ってみると、中高等部になってからのイベントは、球技大会に限らず上級生が下級生だった私たちに話しかけてくれたり、活躍するチャンスを与えてくれたりしたことで、交流ができ、楽しい思い出になっていったように思う。

頭が痛くて、球技大会どころではなかった私が、いざその場に着くと無意識のうちに、今まで上級生が私にしてくれていたことをやっていたのだ。そのことに気付いたときに、私が補習校で学んだことは、日本語の勉強だけではなかったのだと、少しだけ誇らしく思えた気がした最後の球技大会だった。

三年ぶりの球技大会

高等部二年一組　寺門　澪

三年ぶりの球技大会。それは私にとって補習校での最後の球技大会という特別なものでもありました。私はチームのリーダーになり、グループを指揮できるかどうかという不安と期待が混ざり合った気持ちで一杯でした。

待ちに待った土曜日、外は晴天、そして昼には三十度を超えるほどの暑い日になりました。私のグループは、運動神経のいい人たちがたくさんおり、バレーボール、ドッジボール、バスケ、からサッカーまでみんなでサポートしあい、暑さにも負けず頑張りました。

最初の競技はバレーボール。私たちは天井にある障害物などで苦労しましたが、相手チームに勝つことが出来ました。次の競技はドッジボールでした。チームの皆はボールを投げるのが上手く、相手チームを外野に入れるのが上手かったです。私は汗だくになりながら最後まで生き残り、これもまた勝ちました。次から次へと競技がありました。疲れましたがチーム全員で応援しあい頑張りました。バスケットボールは前半はあまり点数を取れませんでしたが、後半はゴールが次々ときまり点差をつけることができ勝利しました。最終競技はサッカー、猛暑の中私たちは汗だくになりながら走りましたが、こちらは勝つことができませんでしたが満足でした。チーム全員でいろいろなスポーツを楽しみ、みんなの笑顔をみることができて嬉しかったです。

閉会式、掃除、記念写真もすべて終わり疲れ果てたみんなにアイスクリームがふるまわれました。運動した後のアイスはものすごく冷たくて、口にふくむとあっという間に溶けて美味しかったです。最後の球技大会は悔いを残すことなく楽しめました。卒業生やボランティアの皆さんにはこのような楽しいイベントを手伝ってもらい、感謝の気持ちでいっぱいです。



球技大会

高等部二年二組　渡邊　喜

高等部最初で最後のちゃんとした球技大会。そもそも参加する予定がなかった僕でしたが、急に参加できて、とてもよかったです。

即席で入ったチームでは、僕を入れて、高等部二年生が三人でした。高等部二年生がもうすでに二人いるなら、「あまり努力しなくてもいい」という、甘い考え方をしていました。ですが、球技大会後は足が攣りそうなほど疲れていました。

なぜそんなに頑張ってしまったのかは、今でもよくわかりません。ただただ勝ちたかっただけだと思っていましたが、競技に負けても、全然悔しくありませんでした。むしろ、相手を褒めたい気持ちが溢れました。多分、楽しいあまり、自然と全力を出してしまったのかと思いました。

中等部のときと比べて、勝ちたい気持ちだけで競ってたのではなく、高等部としてチームを引っ張り、楽しい思い出を作るために競ってたのだと思いました。自分にボールが来たとき、自分だけで動いた方が有利な場合が何度もありました。ですが、チームメイトにボールを渡して応援することで、一人一人がいい思い出ができるように頑張りました。

高等部になって、「中等部の生徒達が球技大会を好きになって欲しい」という意識がありました。コロナで球技大会ができなかった数年があったので、球技大会に初参加する生徒が多かったはずです。そんな彼らが、中等部で次にまたいい思い出を作れるように、僕は彼らに球技大会を好きになってもらおうと頑張ったんだと思いました。

最終的には負けましたが、この球技大会の思い出は、いつか必ず楽しく振り返ると思います。





久しぶりの球技大会

高等部二年二組　静　美海

高二にとっては最後の球技大会がありました。コロナウイルスの影響もあり二年ぶりの球技大会ができてとても嬉しかったです。種目はサッカー、ドッヂボール、バスケットボール、バレーボールの四種類でした。グループをまとめたり、中等部の子たちが楽しめるようにしました。

球技大会当日、グループのみんなとお昼ご飯を食べて作戦会議をしました。私はギリギリでグループが変わったので上手くまとめられるか不安でした。でも、同じグループの高二の人と協力してグループ全員で楽しめました。一つ目の種目はバレーボールでした。ミスしても「どんまい」や「惜しい」などと声を掛け合いました。二つ目の種目はドッジボールでした。相手のチームに強そうな子がいて怖かったけど、上手く避けることができたと思います。三つ目の種目はバスケットボールでした。前半はあまり点を入れることができませんでしたが、後半にたくさん点を入れ勝つことが出来ました。最後はサッカーをしました。気温が三十℃近くあったのでとても暑かったです。サッカー以外の種目で勝つことができて嬉しかったです。全種目終わった後、赤対白に分かれてドッジボール大会をしました。

最初は一つのボールで途中から二つになったので当たらないように避けるのが大変でした。

中等部の人達と話すことがあまりなかったので、チームのみんなと仲良くなれるか不安でしたがとても楽しかったです。また中高等部全体での行事があったら積極的に動いて、自分も楽しく、みんなも楽しくできるようにしたいと思います。















